第１章　２０１７（平成２９）年度の主な取組

２０１７（平成２９）年度に行った環境保全施策の中で、特に力を入れた取組などを報告します。

1　地球温暖化対策を推進する

地球温暖化は地球規模の問題ですが、一人ひとりが日常生活の中で環境にやさしい行動を実践していくことが重要です。

●住宅用新エネルギー及び省エネルギー機器設置費を助成しました

本事業は、環境負荷の少ないエネルギー利用を促進し、地球温暖化対策の推進を目的として行っています。二酸化炭素の排出量の削減に貢献する新エネルギー※1機器や省エネルギー機器を設置する区民を対象に、設置経費の一部を助成しました。

なお、省エネ住宅であるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ＺＥＨ）※2を、太陽光発電システム助成額の加算措置として、助成対象機器に追加しました。

＜２０１７（平成２９）年度実績＞　　（　）：２０１６（平成２８）年度実績

助成対象機器	助成額	助成額の上限	申請件数	助成件数
太陽光発電システム	本体価格の３分の１	１０万円※3	４４件（３５件）	４３件（３１件）
家庭用燃料電池システム		５万円	７２件（８５件）	７１件（８４件）
家庭用蓄電システム		５万円	９件（５件）	７件（５件）
CO_2冷媒ヒートポンプ給湯器		３万２千円	１９件（３４件）	１９件（３１件）
HEMS（家庭用エネルギー管理システム）		２万円	１３件（２１件）	１２件（２０件）
マンション共用部ＬＥＤ照明		１２万円	１７件（１３件）	１６件（１２件）
ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ＺＥＨ）		５万円（太陽光発電システム助成額に加算）	０件	０件

※1 新エネルギー：太陽光発電、風力発電などの自然エネルギーや廃棄物による発電など、石油代替エネルギーとなるもの。助成対象機器では、太陽光発電システム、家庭用燃料電池システムを指す。
※2 住宅の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現した上で、太陽光発電などによってエネルギーを創り、年間に消費する正味（ネット）のエネルギー量が概ねゼロとなる住宅のこと。
※3 太陽光発電システムの申請に加えて、その他の助成対象機器を申請する場合に、その数に応じて１万円ずつ加算。

●クールチョイス普及啓発事業を実施しました

国が実施している地球温暖化対策のための国民運動「ＣＯＯＬ　ＣＨＯＩＣＥ（クールチョイス）」に呼応して、家庭で耐用年数を超えて長期使用されている家電の買換えを促進するため、買換え前後の電力消費量などを実際に計測し、そのデータを活用したリーフレット３種（単身者世帯向け・ファミリー世帯向け・高齢者世帯向け）を作成するなど、「ＣＯＯＬ　ＣＨＯＩＣＥ（クールチョイス）」の普及啓発を行いました。

2 ものを大切にして循環型社会を実現する

２０１６（平成２８）年３月に改定した「目黒区一般廃棄物処理基本計画」では、目標達成のための取組のイメージとして、①１人１日当たりごみ量を約１００ｇ減量、②区全体のごみ量を年間約１０,０００トン減量、③リサイクル率を約３２％に引き上げの３点を掲げています。この取組について、区民や区内団体・事業者に向け、効果的な普及啓発を図るため、２０１６（平成２８）年度に引き続き、「ＭＧＲ１００プロジェクト」を実施しました。

※「ＭＧＲ１００」とは目黒区一般廃棄物処理基本計画の取組である「１人１日当たりごみ量約１００ｇ減量」に向けた合言葉、Ｍ（目黒）・Ｇ（ごみ）・Ｒ（リデュース）・１００ｇの略称。

●「ＭＧＲ１００プロジェクト」ごみ減量アイデア募集

ＭＧＲ１００プロジェクトの一環として、ごみ減量アイデアの募集を行いました。採用された作品は、区ホームページ、区総合庁舎西口・各種イベントのパネル展示などで紹介しました。

❶「僕が！私が！ごみ減量リーダー!!、家庭の取組紹介」

【内容】小・中学生やその家族が家庭内で取り組んだごみ減量の内容を取組シートで提出

【応募･採用作品】９４作品

❷「動画で応募!! 私のごみ減量アイデア」

【内容】区民及び区内団体・事業所がごみ減量の取組を動画ファイルに書き込みＣＤ－ＲまたはＤＶＤディスクで提出

【応募･採用作品】２作品

【❶❷共通テーマ】

めぐろ買い物ルール、水切りによる生ごみの減量、雑がみの分別による燃やすごみの減量、その他１人１日約１００ｇ減量に向けた取組

＜「ＭＧＲ１００プロジェクト」ごみ減量アイデア募集チラシ＞

●ＭＧＲ１００に関する普及啓発事業

ＭＧＲ１００に関する各種イベントを行うとともに、パネル展示や懸垂幕掲出、啓発品の配布などを通して普及啓発を図りました。

＜ＭＧＲ１００イベントの展示＞

3 みどりをはぐくみエコロジカルネットワークを形成する

みどりは、ヒートアイランド現象の緩和、都市景観の向上、生物多様性の確保、都市防災への寄与などとともに、人々にうるおいと安らぎをあたえるなど、多様な効用をあわせもっています。目黒のサクラ再生計画の取組として、目黒川緑地帯と児童遊園のサクラ再生実行計画を策定しました。また、生物多様性に関する取組として、都立林試の森公園内で住民参加型の自然環境調査「いきもの発見隊」を日本野鳥の会と共同で開催し、みどりやいきものの大切さの普及・啓発を図りました。

●目黒のサクラ再生計画の取組

２０１５（平成２７）年度から実施している街路樹・緑道などの樹木診断の結果に基づき、目黒川緑地帯と児童遊園について、保全方法や植替え方針について検討を行い、サクラ再生実行計画の策定に取り組みました。

目黒川緑地帯の計画の策定にあたっては、地域の皆さんの意見を取り入れるため、地元検討会を３回開催し、現地見学などを行いました。

基本的な方針として、樹勢が健全な桜についてはそのまま保全育成し、倒木の危険や枯損を生じた桜については、計画に従い順次植替えを行っていきます。

<目黒川緑地帯の植替えイメージ>
適切な植栽間隔を確保。
低木や地被植物で根元を保護する。

<現地見学会>

●「いきもの発見隊」の開催

区民参加により区内の身近ないきものの生息状況を調べ、専門の先生の講義により自然や生物多様性の大切さについて学ぶイベント「いきもの発見隊」を毎年開催しています。

２０１７（平成２９）年度は目黒川で「川のいきもの発見隊」と、都立林試の森公園で「空のいきもの発見隊」を開催しました。目黒川では、９９名の参加者が川に入り、アユやボラなどの川のいきものを 12 種見つけました。

<目黒川で魚を探す参加者>

4　健康で快適に暮らせる生活環境を確保する

住み心地のよいまちであり続けるためには、歩きたばこや吸殻等のポイ捨てなどを防止するためのモラルやマナーを一人ひとりが守っていくことが重要です。区では、「目黒区ポイ捨てなどのないまちをみんなでつくる条例」を定め、区、区民、事業者などが、それぞれ主体的に協働してまちの環境美化に取り組んでいます。

●屋内型指定喫煙所の開設

２０１７（平成２９）年４月に、東急東横線学芸大学駅西口に、屋内型の目黒区指定喫煙所を開設しました。併せて、喫煙所周辺の路上喫煙禁止啓発パトロールの実施回数を増やし、屋内喫煙所の利用を促し、路上美化推進のための取組を強化しました。

＜学芸大学駅西口屋内型指定喫煙所＞

●ポイ捨て禁止キャンペーンの実施

２０１７（平成２９）年４月１日及び７月５日に、東急東横線学芸大学駅周辺において、ポイ捨て禁止キャンペーンを行いました。両日とも５０名の区民や事業者にご参加いただき、啓発活動を行いました。

駅周辺を通行する方たちに、啓発品を配布しながら、ポイ捨て禁止の呼びかけを行いました。

＜ポイ捨て禁止キャンペーンの様子＞

5 環境を守りはぐくむ人を育てる

地球規模で起こっている環境問題は、日常生活と深く関わっています。環境保全に取り組む人を育てるため、環境推進員養成講座を開催したほか、区ホームページでの環境に関する情報の発信や、「めぐろグリーンアクションプログラム」の推進などを行いました。

●環境推進員養成講座（第１０期）の開催

「『わたし』から始めて『みんな』で取り組むために」をテーマに、全６回の連続講座を開催し、１３人が講座を修了しました。この講座は、環境推進員養成講座の修了生が、企画委員となって企画運営を行っています。

修了後は、「めぐろエコサポーター制度」へ登録することができ、講座の企画や会報の作成、自主グループへの参加などの実践の場が用意されています。ここで１年間活動をすると、環境推進員として登録されます。

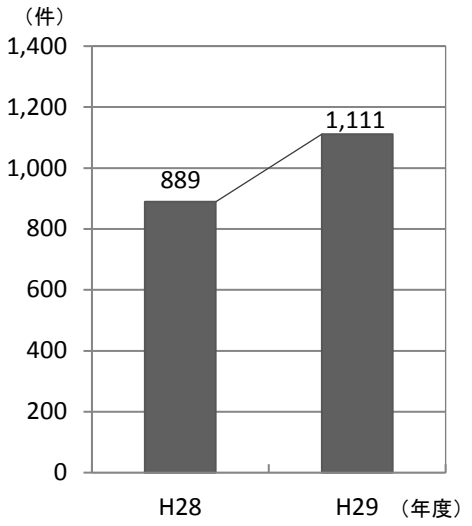
<目黒川の見学>

<グループ発表の様子>

●区ホームページでの環境情報の発信

区では、区ホームページなどを通して、環境関連情報を集積・発信する仕組みをつくり、環境に関連する情報の提供を行っています。

「目黒区環境基本計画」を２０１７（平成２９）年３月に改定した後、区ホームページ（もっと知りたい環境のこと）へのアクセス数が増加しました。今後も環境保全に関わる人を育て、環境配慮行動を推進させていくために、区ホームページの新たなコンテンツを作成するなど、環境に関連する情報の普及啓発や情報提供に、積極的に取り組みます。



<区ホームページ>
「もっと知りたい環境のこと」アクセス数